ネットカンファレンスの開催概要：

日時	2026 年 11 月 11 日　16:00～17:00
説明者	常務執行役員 CFO 吉田 修 コーポレートコミュニケーション部 IR-GL 松坂 玄祐
説明資料	2026 年度第 2 四半期決算の概要 及び 2026 年度業績予想の概要

Q&A

■ライフ＆ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ＆ヘルスケア・ソリューションについて、ビジョンケア、オーラルケア、農業化学品の需要動向を教えてほしい。

A1. ビジョンケアは、高屈折レンズを中心に堅調に推移しています。オーラルケアの Kulzer は、1Q の在庫調整から回復基調にあります。また、8 月から新規連結となった Ultradent Products, Inc.（UPI）につきましては、米国・欧州のホワイトニング関連の販売が堅調に推移しています。農業化学品は、水稲用農薬や除草剤を中心に国内販売が堅調に推移しました。海外販売は、在庫調整が残る地域もありますが、全体として堅調に推移しています。

Q2. UPI について、新規連結による上期業績への影響を説明してほしい。また、来期の利益貢献の見通しを教えてほしい。

A2. UPI は、本年 8 月に買収手続きが完了し、上期は 2 か月分の業績を連結しています。上期においては、UPI の 26 年 8-9 月の事業収益から無形資産償却費を差し引いた連結への利益貢献は、約 10 億円となりました。また、UPI 取得に伴う一過性要因による上期の利益押し下げ影響は、Δ26 億円となりました。来期は、事業の成長に加え、今期の一過性要因によるマイナス影響がなくなる見通しです。

Q3. ライフ＆ヘルスケア・ソリューションの通期見通しについて、UPI を除く既存事業の状況を教えてほしい。

A3. UPI を除いた既存事業の状況は、期初予想に沿って推移しています。

■モビリティソリューションセグメント

Q4. モビリティソリューションの上期から下期にかけて減益となる見通しについて、その背景を説明してほしい。

A4. 上期から下期にかけての減益は、原燃料価格や販売価格などの交易条件について、一定の不透明感を見込んでいることが主な要因です。一方、グローバル需要はおおむね安定して推移しており、下期には期初計画どおり高機能 PP 新設備の稼働を予定しています。これらを踏まえ、5 月に公表した通期コア営業利益 510 億円を据え置きました。

Q5. タフマーについて、シンガポールプラントの稼働状況と、差別化用途などの開拓の進捗状況を説明してほしい。

A5. 新プラントは、原料調達状況と需要動向の双方を見ながら、適切な稼働水準を維持しています。差別化領域の開拓に注力し、自動車・工業向けの拡販を進めています。下期においても、これらの用途における販売数量の拡大に取り組むとともに、原料調達状況を見極めながら稼働をコントロールしていきます。

■ICT ソリューションセグメント

Q6. ICT ソリューションの 1Q から 2Q の増益要因と、上期から下期への減益要因について説明してほしい。

A6. 1Q から 2Q にかけては、旺盛な重要を背景に半導体関連製品を中心に販売数量が拡大しました。また、価格改定による交易条件の改善も貢献しました。上期から下期にかけては、販売数量の増加を見込む一方、EUV 露光用 CNT ペリクル製造設備の償却開始等、事業拡大のための固定費増加を見込んでいます。

Q7. イクロステープ™やペリクルの販売動向、EUV 露光用 CNT ペリクルの立ち上げ状況を教えてほしい。

A7. イクロステープ™、ペリクルともに販売が堅調です。イクロステープ™の 2Q の販売数量は対 1Q 比で約 10%増加し、3Q も高水準を見込んでいます。ペリクル事業の売上収益は、2025 年度から 2026 年度にかけて 30%以上の増加を見込んでおります。EUV 露光用 CNT ペリクルの顧客評価は順調です。顧客からの追加要請にも対応しつつ、立ち

上げ準備を進めています。

■ベーシック＆グリーン・マテリアルズセグメント

Q8. ベーシック＆グリーン・マテリアルズ（B&GM）の基礎収益力について、ナフサクラッカー稼働率が 70%を下回る中でも上期・通期とも 40 億円を維持できる要因は何か。来期は、在庫評価益の消失はあるが、どのような構造改善効果を見込んでいるか説明してほしい。

A8. ナフサクラッカーの稼働率は、上期実績が 70%弱で、下期も 70%程度を見込んでいます。一過性の在庫評価損益等を除いたナフサクラッカーの損益は、引き続き厳しい状況です。一方、構造改革の効果に加え、誘導品および持分法適用会社が利益に貢献していることから、通期でも 40 億円の利益を確保できる見通しです。今期から来期にかけては、一定の在庫評価益の消失を想定しているものの、千葉地区におけるナフサクラッカーの一基化による構造改善効果に加え、国内ポリオレフィン事業の統合効果も徐々に発現する見通しです。これらの構造改革効果により、基礎収益力はさらに高まる見込みです。

Q9. B&GM について、1Q から 2Q、および上期から下期にかけての損益変動要因を説明してほしい。

A9. 1Q から 2Q にかけてΔ114 億円の減益となりました。主な減益要因は、ナフサ価格の下落に伴う在庫評価損益等の悪化による約Δ75 億円と、大阪工場の大型定期修繕による約Δ40 億円の利益押し下げです。上期から下期にかけては、Δ339 億円の減益を見込んでいます。下期はナフサ価格下落を前提としており、それに伴う在庫評価損益差等でΔ300 億円強の減益を見込んでいます。上期に発生した大型定期修繕の影響はなくなる一方、租税公課をはじめとする固定費は例年通り下期に増加する見込みです。

以　上